

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

鮎

11

NOVEMBER
1994



特集 イタリア・フランス旅日記
(イタリア編)

No.457



季節の香

かおり

【ノジギク／野路菊】

海岸の傾斜地でノジギクが花盛りだった。キク独特の香りが漂い、晩秋の柔い陽射しに花弁の白さが目立っている。

陽溜りの一輪から虻が飛びたつ。小刻みに羽を震わせて、脚先に黄金色の花粉団子がキラリと光る。タテハチョウが来て、蜜蜂もやって来た。群生する花は虫たちの賑やかな食堂になる。

キクは植物界では大所帯の一群で、種類は実に多い。野性のものには、栽培種にない素朴さがあり、人知れず咲く姿は優雅で美しい。兵庫県の花に選ばれたノジギクも野生味が喜ばれ、潮風に揺れる姿に魅かれるものがある。

やがて厳しい季節を迎え、木枯らしの中で種子を結び枯れ果てるが、土の中では冬至芽が伸び、新しい年に元気よく吹き出る準備が進んでいる。

COLUMN

江戸切絵図散歩

◆人生の愉しみは、趣味を持つことに始まる。「私はいたって無趣味で」という人も一つや二つは好きなことがある筈だ。それはスポーツであり、旅であり音楽であり、多種多様な遊びの世界へと繋がる。海釣り生き甲斐という人もおれば、日曜大工がこうじて自分の家を建ててしまった人もいる。美術館を巡り歩いたり、寄席に落語を聴くのも楽しいものである。◆落語は扇子と手拭いであらゆるものを表現し、武士や町人／女や子供を仕種で演じ分ける。聴衆を

物語りの中へと引き込んで、笑ったり泣かせたりする見事な話芸である。『西の旅』というシリーズ物は、その土地の風物や故事を茶化しながら折り込み、歴史上の人物や古い習俗がさり気なく述べられる。地名のいわれや方言が入り「播州めぐり／明石名所／兵庫船」などの演目が面白おかしく続く。落語が風俗資料と言われるのが良く判るのである。◆上方落語では桂米朝が好きで、文章だが、文章に秀れて立派な全集をまとめ上げた。演者としても正攻法な技芸の中に、ぬめっとした艶っぽさに独特の魅力がある。

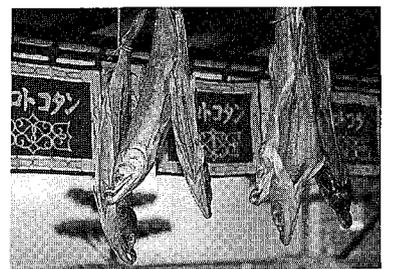
故人となったが円生や正蔵の語りには、主人公がイキイキと演じられて、江戸の切絵図を持って一緒に散歩しているような面白さがあった。関西には寄席と呼べる演芸場がなく、気軽に落語を愉しめないのが寂しい。◆「趣味を持たない天才は馬鹿である」とか。人生を愉しくするのは旺盛な好奇心と「何でも見てやる」という心意気である。さすれば、瑞々しい感性が限らない快楽を呼び寄せてくれる。そして趣味に没頭すれば、お金など無くてもココロはバラ色である。(遊方子)

拓水 NOVEMBER CONTENTS

季節の香	2
ノジギク／野路菊	
ESSAY	4
旬(しゅん) 岩間 省三	
特集	5
『イタリア・フランス旅日記(イタリア編)』	
TOPICS	9
第11回淡路地区漁婦連バレーボール大会	
水試ノート	10
明石の気象	
漁海況情報	12
海区漁業調整委員会だより	
栽培漁業センターです	14
普及員だより	
あたと恐いフグの話	
旬の美味しい話	15
わかめの芯入りイワシのさつま揚げ	
兵庫JCC通信	
創造と変革で培うJAづくりをめざして コープこうべ『コープデイズ神戸北町』 播磨生協『コープ赤穂』	
こちら海ですロケだより	
剣道二段 料理はシェフの腕前 ～兵庫県津名郡北淡町より～	

今月の表紙

フォトギャラリー



表紙写真
綿貫敏彰さん
〈県漁連〉

フォト歳時記

ポトコタン(北海道白老にて)
北国では秋から冬へ季の変化は早く、短い秋が過ぎると直ぐに冬越しの準備に入る。忙しい時の流れの中で、人々は作業に精を出す。
復元された草葺きの住まい。イロリの前に昔の暮らしぶりが語られる。周りに古い道具が並び、天井からは燻製のアキアジ(鮭)が下がる。冬に備える巧みな生活の知恵。そんな祖先の姿や習わしを残したいとこの地に集められた。「ムックリ」と呼ぶ楽器の哀調帯びた音色が、汗と血と涙の歴史を語りかける。

表紙写真募集

アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記して、お送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④自宅電話番号(市外局番号も)⑤年齢・職業

送り先

千六五二神戸市兵庫区中之島二丁目
二一ノ一県立水産会館
兵庫県漁業協同組合連合会
指導部指導課「拓水」係宛

旬(しゅん)

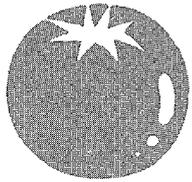
兵庫県瀬戸内海漁業操業安全協会

事務局長 岩間省三

「旬」広辞苑に依れば、一つの解釈として魚介、蔬菜、果物等が、よく熟して味の最も良い時とあるが、近頃その感覚が少し変って来た様な気がするのは、自分一人ではあるまい。

旬とは本来季節に関した言葉であって魚介、蔬菜、果物等は、季節とは切っても切れぬ関係であったものが、栽培技術の進歩、施設の改良、改善等によって、大きく変化して来ていることは消費者として喜ぶべきかどうか。

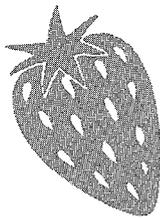
まして、子供、孫達はどんな感覚で、味わっているのかを考えた時、真実を知らぬことに対して大変淋しく哀れに思えて来るのである。例えば、トマトの旬は夏である。子供の頃暑い中を学校から帰ると井戸水で冷やしたものを塩をつけて、かぶりついたもので、それ



も余り大きくないものが、多かったが味はずばらしく良かったと思う。最もその時は腹もへっていた事もあり、暑かったせいで、そう感じたかも知れないが、今となっても忘れられぬ味である。

ところが、今は年中しかも大きなものを市場で見ることが出来る。特に子供達にとって旬を判らなくしているのが、苺では無いかと思う。

以前は苺が出荷される時期(勿論路地もの)又苺狩り等が新聞広告に載ったりすると五月という季節を肌で感じ、初物を食べれば七



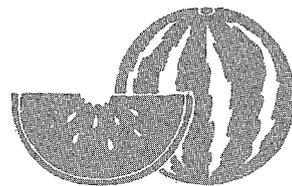
十五日永生きすると云われるので少し高いかと云い乍ら口にしたものである。今は冬でも見ることが出来クリスマスケーキには必ずと云う程利用されて居る子供達は、どう感じて食べているのだろうか。

真冬に西瓜が店頭に並んでいても、それ程欲しいと思わぬものもあながち財布のせいばかりでは無い。もう少し日本が誇る四季という季節感を大切に、天の恵みの旬の味を感じ感謝しても良いのでは無いだろうか。

「旧い、旧い」という声が耳もとで囁かれているのが聞こえるようだが、それで無くとも孫達とは食に対する否、味に対する感じ、考え方が変化している時代に真実の旬と味を知って貰いたい気持ちが残るのである。

魚介類に於ても同じ様なことが云えるのでは無いだろうか。

ハマチは、年中養殖されていることは周知の通りだが、天然ものは、盆までのものをツバスと云い盆を過ぎるとハマチ

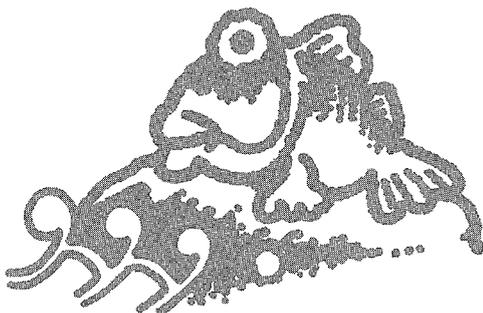


と云うとか聞いていたが、これも漁業者の季節に応じた呼び名であり、味の変化も、これによって違って来ることだと思

う。料亭で出されるハマチの殆どが養殖物と云われているが、一度天然ものと食べ比べて見れば、その味の差は歴然として

いることは云うまでも無い。冬の「すずき」を喰うならば大根を喰へ、大根の方が旨いと云われたものだが聞くところによると、冬場は白身の魚が少く代って値がすると聞いて、市場価値は何だろうと思うことがある。

新緑を告げる若布は養殖ものに殆んど代ってしまったが春を告げる「いかなこ」だけは無くならないであろう。旬のものを肴に熱燗で一杯と云うことが続けられる事の一日も永いことを祈っている。健康の為に。



特集

イタリア・フランス旅日記

財団法人 兵庫県水産振興基金

〈イタリア編〉

平成六年度「国際交流事業」として、九月二十二日から二十九日の八日間にわたり、当基金の山田副理事長を団長とする総勢二十名の視察交流団が、イタリアとフランスを視察した。
各地において見聞した様々なことがらをエピソードを交えて紹介する。



今回の視察では、イタリアにおいては、ローマの中小漁業協同組合連合とフィミチーノの漁業協同組合を、また、フランスにおいては兵庫県パリ事務所を公式訪問したほか、南仏マルセイユのウォーターフロント地区及びカシス漁港を視察した。
さらに、視察の合間を縫って、両国の代表的な遺跡などを見学し、ヨーロッパ文化への造詣を深めた。
今月号では「イタリア

編」を、来月号では「フランス編」を紹介する。

■ローマ到着まで

九月二十二日午前十一時四十分、視察交流団一行は、開港後間もない関西国際空港から日本空港のジャンボに搭乗し、一路パリに向かった。

飛行航路は、新潟上空を通過し、ロシア共和国を横断してバルト海へ抜け、パリに向け南下する北回りコースである。
パリ郊外のシャルルド・ゴール空港には同日の夕方四時四十五分（日本時間午後十一時四十五分）に到着。所要十二時間の長旅であった。
しかし、我々の目的はローマである。睡魔と闘いながら乗り継ぎのた

●イタリア・フランス視察交流日程

月日	場所	行事内容等
9月23日	ローマ フィミチーノ	・「LEGA PESCA」 イタリア中小漁業協同組合連合会訪問 ・「IM PESCA」 フィミチーノの漁業協同組合訪問
9月24日	ローマ	・ローマ市内視察 ビトリオオマーケット（農水産物市場）、 コロッセオ、サン・ピエトロ寺院等
9月25日	マルセイユ	・マルセイユ旧港視察 ヨットハーバー
9月26日	マルセイユ	・マルセイユ近郊のカシス漁港視察 ・マルセイユのウォーターフロント地区視察
9月27日	パリ	・パリ市内及びパリ近郊視察 ノートルダム寺院、トロカデロ広場、 ベルサイユ宮殿等
9月28日	パリ	・兵庫県パリ事務所訪問

●イタリア・フランス視察交流参加者名簿

所属	氏名	所属	氏名
神戸市漁業協同組合	(眼)山田春三	兵庫県栽培漁業協会	吉岡 力男
兵庫県水産課	小西 一弘	家島漁協青壮年部	梅崎 一哉
神戸市漁業協同組合	信川 末一	坊勢漁協水産研究会	荒木三十六
兵庫県漁業協同組合	湯本 一郎	仮屋漁協4Hクラブ	南山 寿男
家島漁業協同組合	中村 庄助	仮屋漁協4Hクラブ	山口 公明
沼島漁業協同組合	青石 協	沼島漁協青壮年部	石井 幸樹
浜坂町漁業協同組合	宮崎 寛	沼島漁協青壮年部	中元 靖
兵庫県漁業信用基金協会	藤原 力	浜坂町漁協青壮年部	中村 勲
兵庫県内海漁船保険組合	岡本 敏夫	兵庫県水産振興基金	満尾 伸洋
兵庫県漁業協同組合連合会	林 一成	〃	三木 宗和

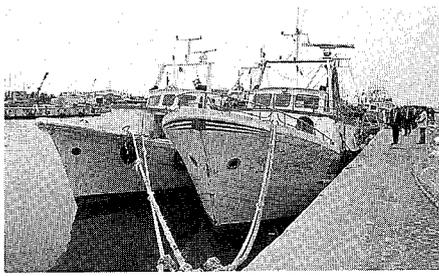
レ組合長の大歓迎を受けた。

「LEGA PESCA」においてイタリアの漁業概要について説明を受けたので、「IM PESCA」では実際に操業している漁船や漁具を見せてもらった。

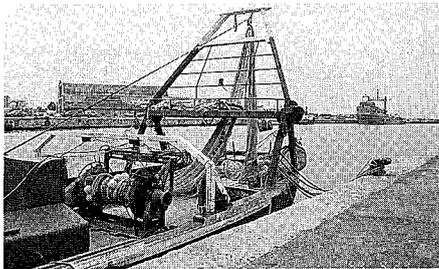
「IM PESCA」は、底びき網(板びき網)漁業を主体にした四十五隻の漁船(総トン数三十トンから八十トン)を有する協同組合である。

底びき網漁業の操業時間は午前四時から午後四時までの十二時間操業であり、カレイ、エビ、タイ等が漁獲されていた。なお、距岸三マイル以内は操業が禁止されている。

また、ハマグリ、アサリを漁獲対象にした、貝けた(ポンプ利用)漁船も見受けられ、この漁法(地元ではターボ送風装置と呼ばれる)が自慢のようであった。視察を終えて、日本の浜糸屋風のカフェテラスで懇談した。漁業者の年金制度に



「IM PESCA」底びき網漁船



底びき漁船の漁具(板びき)



ターボ送風装置付 貝けた

ついて質問があったが、イタリアでは、全ての漁業者が年金を掛ける義務があるということであった。

おみやげの版画を渡すと、ここでも大変喜ばれた。日本からの訪問団は恐らく我々が初めてであったのだろう。感激されたのか、珍しがられたのか、そのお返しに「IM PESCA」訪問記念の盾を頂いた。

■カンツォーネを聞く

その日の夕食は、カンツォーネを聴きながらディナーショーを楽しんだ。

ディナーショーは屋外の露店で行われ、日暮れとともに、あたりは暗闇に包まれた。観客は大半が日本人であった。

アコーデオオン、トランペット、タンバリンなどの楽器を持った一団が、各テーブルを歌って回るショーで、チップ(一曲三千リラ・二百円)を渡さないとテーブルに来てくれない。チップを渡すとリー

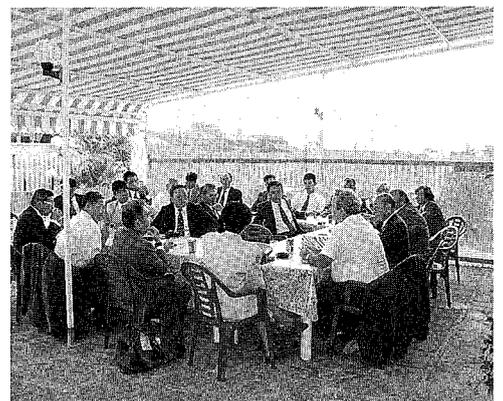


ロレンツォ・メルキオッレ組合長(左端)から訪問記念の盾を頂く

ダー格のおじさんが、「マイッタ、マイッタ」と変な日本語を連発しながら受けとり、歌い手がリクエスト曲を歌ってくれた。しかし、うっかりお金をテーブルの上に置いてしまうと、歌も歌わずに、かっけて取って行ってしまうというなんとも「マイッタ」ショーであった。団員の中には無駄金を投資された方もおられたようである。

■ローマにて

九月二十四日は、終日市内見学をした。ローマ市内は、街全体が芸術作品であるといっても過言ではないぐらいに、いたるところに、歴史を感じさせる石造りの立派な建物や彫刻がある。ただ、極端に駐車場が少なく、あっても路上駐車場であるために、あらゆる道路で自動車(オートマチック車はなく、シビッククラスの小型車が多い)が溢れ大混雑して



懇談会

いた。その上、車優先ということで、たとえ横断歩道であってもものんびりとは歩けない。道路を横断するのは、まさしく命がけである。また、メイン道路はすべて石畳であり、道路工事も大変な手間であらう。

◎農水産物青空市場

ローマ市民に人気のある青空市場「ビットリオマーケット」は、日本の



ビットリオ・マーケット 魚屋さん

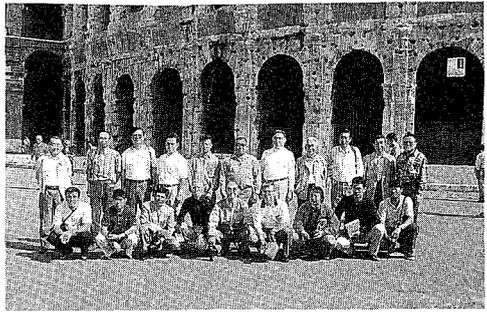
縁日の屋台のように、狭い通路をはさ
んで、両脇に様々な店がドーナツ状
に連なっており、一周すると三十分以
上かかるほどの規模である。

ヨーロッパでは、生鮮食品は青空
市場で販売されているということ、
野菜、果物、肉、魚がところせましと並
べられ、買物客でごったがえしていた。

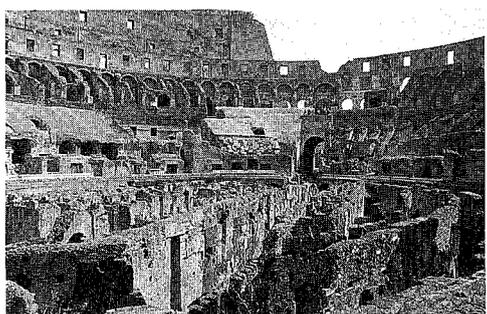
魚の種類は豊富で、イワシ、サバ、
タイ、タチウオ、アナゴ、イカ、エビ
等日本と変わらない魚が販売されてい
た。ただ、鮮度はあまり良いとは思え
なかった。

◎古代キリスト教徒のお墓

「サント・ドミテラ・カタコンベ」と
いうキリスト教徒のお墓の遺跡は、古
代ローマ帝国の迫害により殉教したキ
リスト教徒を埋葬したところであり、
キリスト教徒の秘密の会合場所として
も利用されたそうである。



コロッセオ 記念写真



コロッセオ 内部

としては最もポピュ
ラーな遺跡である。
紀元八十年に完
成したコロッセオ
は、幅の広いところ
は百八十八メー
トル、狭いところ
で百五十六メー
トル、高さ五十七メー
トルという楕円形
の巨大な石造四階

墓場は地下深く岩盤を掘削してアリ
の巣のように造営されており、内部は
一歩道を間違えれば二度と地上に出ら
れないような迷路になっていた。裸電
球の明りを頼りに迷路を徘徊したが、
いたるところに小部屋があつて、その
周囲の岩盤には、殉教者の棺桶を安置
した棚が岩盤を穿って作られており、
数十年前までは「しゃれこうべ」が散
乱していたということであつた。三十
分ほど見学し地上に出た時には、殉教
者の束縛から開放された思いがして溜
息がもれた。

宗教の持つ偉大な力に感動すると同
時に背筋が寒くなるような畏怖の念を
抱かされるころであつた。

◎コロッセオ

「コロッセオ」という名前は御存知な
い方でも、写真を見れば、「ふむふむ」
とうなずかれるほど、古代ローマ遺跡



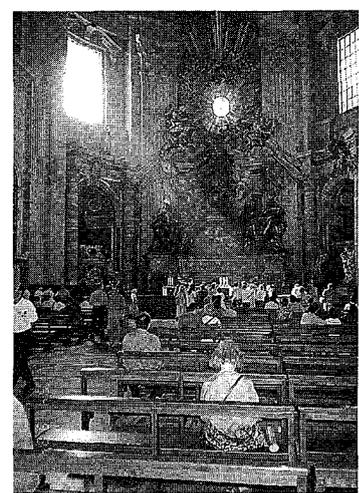
サン・ピエトロ寺院
手前の広場には40万人が収容できる

建ての闘技場で、罪人(キリスト教徒)
同志あるいはライオンと罪人を闘わせ
た場所である。

◎サン・ピエトロ寺院

ローマ市内にある世界一小さな独立
国「バチカン市国」にサン・ピエトロ
寺院はある。紀元三百二十六年ネロ皇
帝に殺害された聖ペテロの墓の上に聖
堂を建てたのがこの寺院の歴史の始ま
りであり、千五百六年から百二十一年を
かけて大改造がなされたものである。
また、寺院の前面には四十万人が収容
できる美しい広場があつた。

内部は巨大なドーム造りになってお
り、照明設備はなく、壁面、天井に描
かれた絵画や周囲に置かれた彫刻が薄
明りの中に浮かび上がり、おごそかな
雰囲気包まれた。聖ペテロの墓の前
では膝を折りお祈りする人々が大勢



サン・ピエトロ寺院 内部

我々一行はあまりの荘厳さに口をば
かんと開けたまま沈黙し、ガイドさん
の説明にひたすら聞き入るばかりであつ
た。

その他に、映画「ローマの休日」で有
名な「真実の口」やコインを投げると再
びローマに来れるという「トレビの泉」
などを見学した。
イタリア最後の夜は日本料理を食べた。
イタリア料理が口に合わなかった方も、
日本酒に舌鼓を打ちながら食事を平らげ
ていた。
(以下、次号に続く)



トレビの泉

明石の気象

NOTE 水試

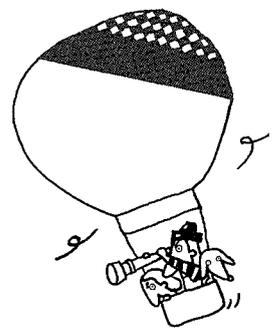
今年の八月末に、「気象予報士」なるものの第一回資格試験が行われたことは、まだ記憶に新しいと思います。今後は、この資格があれば、気象庁のデータをもとに独自の予報を公表することが可能となるそうです。私たちの日常生活に密接に関わっている気象や海象。これらに対する関心はこれからもますます高まり、活用される分野も拡大していくことでしょう。

漁業の分野においても、気象・海象との関わりが非常に密接であることは疑いようがありません。水産資源生物そのものが、その生息する水域の影響の下で生活しているのですから、資源が気象・海象要因やその変化に反応することは当然でしょう。しかしながら、その関係を明確に捉えていくことはなかなか困難です。気象や海象を把握すること自体が、記述的かつ叙述的な作業のうえに成り立つ基礎データ無くしては進められないうえに、近年の盛んな（漁業をも含めた）人間活動の影響を適正に評価し、斟酌を加えなければならぬからです。すなわち、①継続的なデータの蓄積と、②その適切な処理と理解が不可欠なのです。

水産試験場におきましても、毎月の船上での海洋観測の他に、沿岸地先での観測（定置観測）を必須の業務と考え、毎日定時に実施してきました。観測項目としては、雲量、雲形、天気、湿度、降水量、風向、風速、波浪、気温、気圧、水温、塩分、視程、および日射量の多岐にわたっています。測定地点や方法がほぼ一定であった一九五六年から一九九一年までの結果のうち、身近なものについて少し紹介してみましょう。

図1は、明石港口東沿岸における日別表層水温の変化を表したものです。厳冬

ですが、身近な海域の水温を知る方法としては、お手軽な覚え方だと思います。



一九六三年や、酷暑の夏であった本年など、各年毎にその推移の様子は異なりますが、平年値としては図中の太線のようになります。八月末から九月はじめにかけて最高値（約二十六℃）を示し、二月末頃に最低値（約八℃）を示します。非常にざっくりとした表現であることをお断りしたうえで、敢えて簡単に言いますと、三月から八月までは月の三倍の数字が水温の概算値、九月から翌二月まではその折り返しとなっています。例えば七月ならば七×三で約二十一℃、十一月ならば、その水温は六月とほぼ同じで六×三の約十八℃となります。時期や年度によっては、実測値と多少の差が生じ

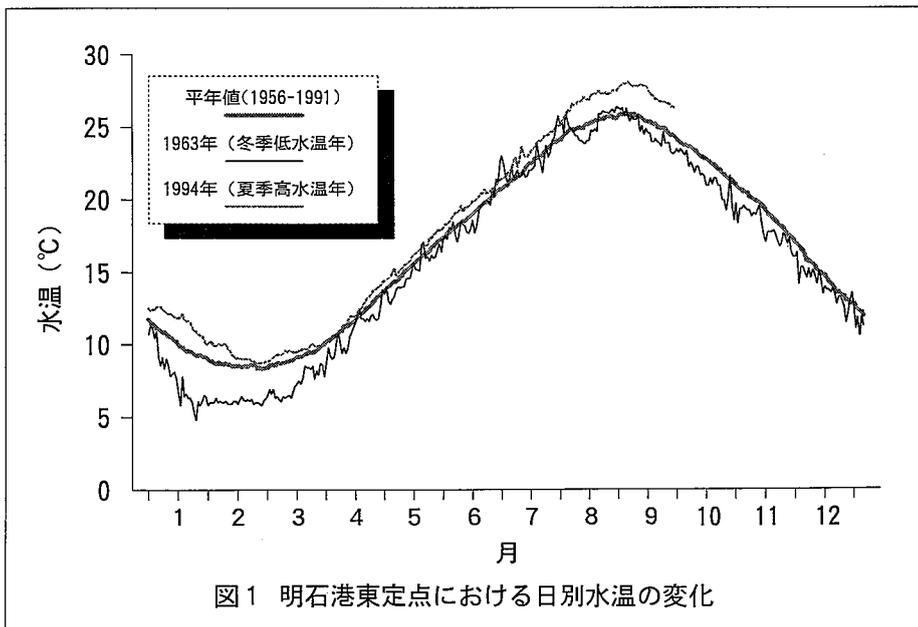


図1 明石港東定点における日別水温の変化

図一は塩分と降水の様子を表したものです。塩分(十五日間移動平均値)は、梅雨の多雨期に低下し、その後気象条件が安定する夏期に上昇傾向に転じますが、その季節変動は水温の場合ほど顕著ではありません。年によっては図中の推移とは全く異なる挙動を示すこともあります。降水の測定がスポット的なものであるため、塩分との関係を論じるにはいささかデータ不足の感は否定できませんが、一年間の測定値を平均してみますと、降水量との間には逆の相関があることが分かります(図3)。

一九六五年、七二年、および七四年のように、年間降水量が千五百mm以上と、平均値の千九百mmを大きく上回るような年は塩分濃度が前年より低下しています。また年降水量が八百mm前後と少なかった

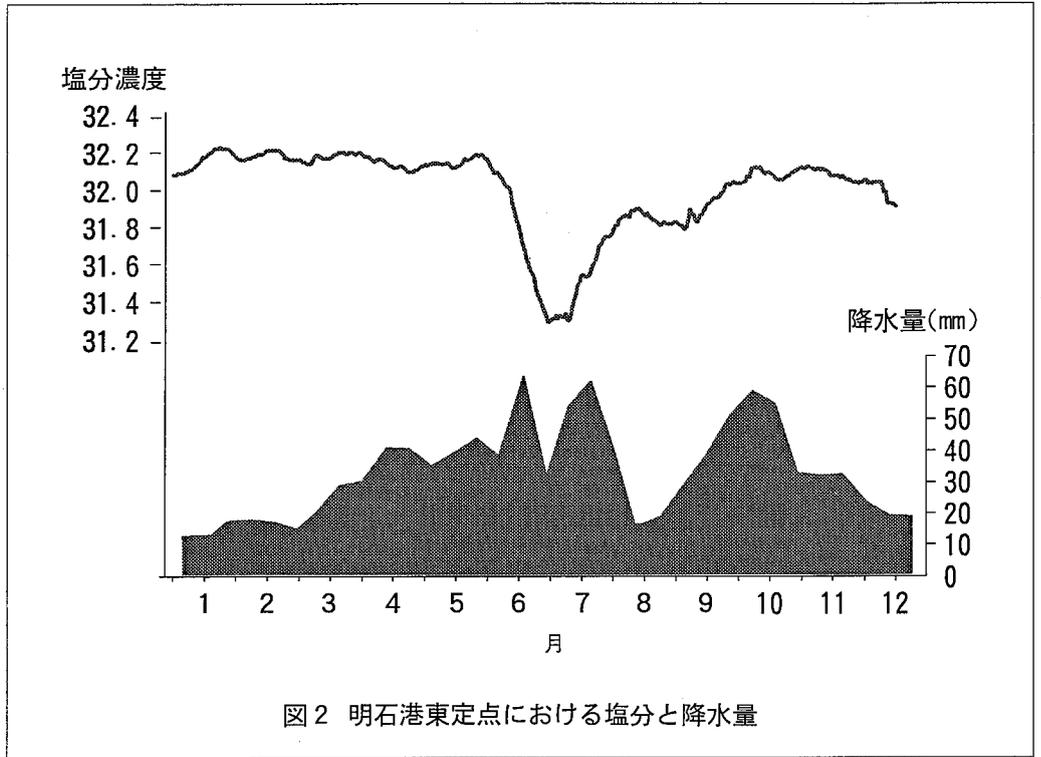


図2 明石港東定点における塩分と降水量

一九六四年、七三年、七八年には逆の現象が起きています。

さて、一九九二年の水産試験場の二見人工島への移転に伴い、かつてと同じ地点での同じ手法による観測業務は事実上不可能となってしまいました。これはデータの蓄積という観点からは、非常に残念なことではあります。しかしながらその

一方で、新しい水産試験場には、高度情報化社会に対応した水産情報システムが導入され、水産関連情報を総合的に管理運用する体制が整備されました。現在その一環として、水産試験場の自動気象観測装置や、大阪湾、播磨灘、鳴門海峡等の五ヶ所に設置された観測ブイシステム

による二十四時間連続観測が実施されており、その情報は随時データベース化されています。ちょっと手もとの計算機を叩いて頂ければ分かれると思いますが、二十四時間連続観測の結果を得られるデータの情報は膨大なものです。これらのデータは適宜、取捨選択や加工が施され、

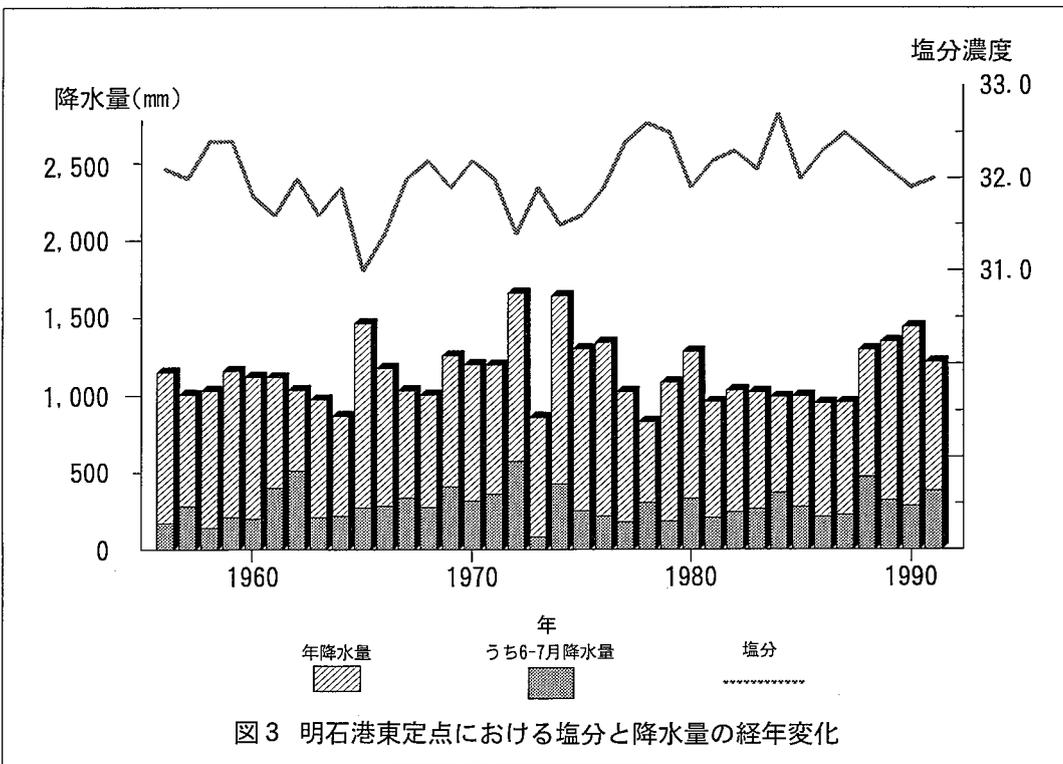


図3 明石港東定点における塩分と降水量の経年変化

イワシ類など内外海交流魚種の来遊やイカナゴ等の発生・拡散状況の検討、ノリ養殖の管理、栄養塩類の増減および赤潮発生の予測など、様々な形で漁業生産の向上に役立てられています。今後、気象・海象を含めた幅広い漁業情報を発信する『ホットステーション』として、水産試験場の活躍にご期待ください。



漁海況情報

兵庫県立水産試験場

海況

概況 水温は下降し始めたものの、まだ高水温が続いており、播磨灘十五地点平均水温は、表層で二五・八℃と平年値を一・五℃上回っている。塩分は先月に比べさらに上昇し、十五地点平均値が表層で三二・七六と平年を一・二上回っている。灘北部を中心に薄い濁りが認められ、透明度が低下している。小型珪藻大型珪藻ともほとんど出現していないが、灘中央部から南部の表層に繊毛虫メソティニウムが暗い赤紫色の赤潮を形成している。赤潮発生海域以外では表、中、底層とも栄養塩濃度は高い値を示している。ノリ育苗にあたっては、水温が高いので、今後の情報に注意してください。

水温 播磨灘ではすべての調査点で表層から低層まで二五℃を上回っている。また表、底層の水温差はほとんどなくなっている。

透明度 プラנקトン発生量が少ないにもかかわらず播磨灘北部を中心に低い値を示しており、十五地点平均値は先月に比べ二・四m低下し、平年を二m程度下回っている。この原因として台風がもたらした降雨や波浪の影響により、海中の微細な粘土粒子等が沈降しないまま浮遊していること

とが推察される。

プランクトン 播磨灘中央部から南部にかけて所々に繊毛虫メソティニウムの赤潮が発生している。一方、小型珪藻、大型珪藻は灘全域でほとんど認められない。

栄養塩 いずれの栄養塩も濃度が上昇し、溶存態窒素は平年と同程度の濃度、溶存態リンおよび珪酸は平年をかなり上回る濃度を示している。

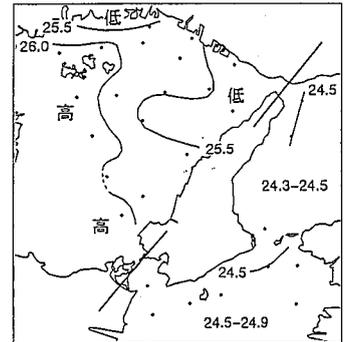
漁況

小型底曳網 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網では、マダイ（かすこ）、サルエビ、マダココウイカが主体である。紀伊水道北部ではマダイ（かすこ）、シロギス、マナガツオが主体である、一本釣り・曳き縄釣り、明石海峡及びその周辺域では、タチウオ、アジ、つばすが主体でサワラ、アオリイカも漁獲されている。紀伊水道北部では、アジ、サワラ、タチウオが主体である。

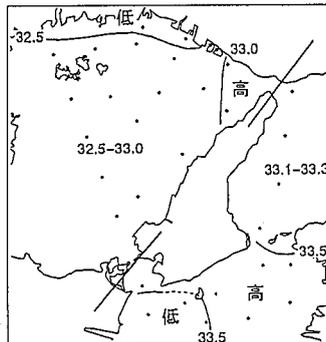
船曳網 しらす漁は漁獲が低調になってきている。卵・稚仔の出現状況からみて漁期の終了は、はやいものと思われる。

カタクチイワシ卵・稚仔 各海域とも、卵・稚仔の出現は見られなかった。

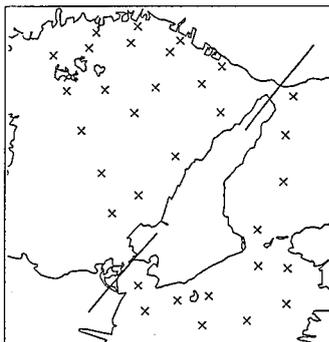
水温（表層、℃）



塩分（表層）



カタクチイワシ卵



カタクチイワシ卵

海域別水温とカタクチイワシ卵・稚仔の出現状況(10月)

海区漁業調整委員会だより

十月十七日

第二二六回兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会及び委員協議会を兵庫県中央労働センターで開催

第二二六委員会

一、瀬戸内海機船船びき網漁業及び機船船びき網漁業許可方針の一部改正について（諮問）

福良、南淡、沼島漁業協同組合所属の船びき網漁業の操作時間の変更に關する許可方針の一部改正について、兵庫県知事から諮問がなされ、審議の結果原案どおり改正して支障がない旨答申することを決定。

これをうけて、福良、南淡、沼島漁業協同組合の船びき網漁業の操作時間は、「午前六時から午後五時まで」と許可方針が改正される。

二、瀬戸内海における小型機船船びき網漁業許可方針の一部改正について（諮問）

姫路地区の底びき網漁業の操作期間変更に関する許可方針の一部改正について、兵庫県知事から諮問がなされ、審議の結果原案どおり改正して支障がない旨答申することを決定。

これをうけて、姫路地区の手繰第二種漁業ごき網漁業の操作期間が「四月一日から十月二十日まで」と、手繰第二種漁業ごき網漁業の操作期間が「二月一日から十一月三十一日まで」と許可方針が改正される。

三、区画漁業の変更免許について（諮問）

家島、坊勢漁業協同組合のノリの区画漁業権「区第八十号」の変更免許について、兵庫県知事から諮問がなされ、審議の結果原案どおり変更して支障がない旨答申することを決定。

これをうけて、区第八十号の位置は、次のア、イ、ウ、エ及びアを結んだ線によって囲まれた区域に変更される。

- A 飾磨郡家島町院下島西端
- B 飾磨郡家島町小松島西端
- ア Aから三〇度五〇〇メートル
- イ Bから二三八度四〇〇メートル

の点
ウイから二八七度一三〇〇メートルの点
エアから二八七度一三〇〇メートルの点

委員協議会
一、岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会の平成七年度入会協定内容について

平成七年度の岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会の入会協定内容について、関係地区の意見の取りまとめを地元委員に依頼。

十二月の委員会で、地元委員から関係地区の意見を報告してもらったとにも当委員会の方針を決定し、来年二月に予定されている連合海区漁業調整委員会に臨む予定。

二、第二十九回全国海区漁業調整委員会連合会西日本ブロック会議の提出議題及びスケジュールについて

十一月二十九日に神戸で開催するブロック会議について、他海区からの提出議題に対する当委員会としての回答を決定するとともに会議の日程を事務局より説明し了承された。

三、行政手続法の施行に伴う兵庫県

瀬戸内海海区漁業調整委員会公聴会及び公開の聴聞に関する手続規程等の改正について行政手続法施行に伴い、改正を必要とする当委員会の規程及び要領について事務局より改正内容の概要説明を行いました承された。

規程等の改正は、十二月の委員会を予定している。

十月二十六日

第三百七十九回但馬海区漁業調整委員会及び委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催

(委員協議会)

一、機船船びき網漁業

(さより船びき網漁業)の許認可取扱方針について

(諮問)

去る六月をもって従前許可の有効期間が満了した当該漁業について、今後三年間の許認可取扱方針が県知事から諮問され、審議の結果、原案どおり決定して差支えない旨答申することを議決。

(委員協議会)

二、平成七年以降の小型いかつり漁業の許認可取扱方針等について(事前協議)

三、沿岸いかつり漁業の光力等の規制に係る委員会指示の発動について(事前協議)

(以上二議案一括協議)

懸案となっている平成七年以降の五トン以上三十トン未満船に係る取扱方針等について事前協議を継続すると共に、五トン未満船に係る集魚灯の光力等制限の委員会指示案を事前協議。

今回は特に、県から提示されている県内船及び県外船に係る各取扱方針並

びに県外船の陸揚同意基準案について、それぞれの内容を各項目ごとに再確認した後、但馬地区沿岸漁業者の保護、県内外及び経営規模の異なる漁船間の円滑な入会操業、漁業秩序の維持等を基本に真剣かつ慎重な審議が長時間に亘って展開され、委員会としての意見集約と收拾案の取りまとめが行われた。

その結果、①最大の難問となっていた県外船の取扱については、京都・鳥取・島根の隣接三府県以外の県外船については、十トン未満船であっても距岸約五万メートル以内(大臣承認に係る中型いかつり漁業禁止区域内)での操業を許可をしない、②県内船・県外船共通の光力等規制(五トン未満船に係る委員会指示を含む)については、距岸約五万メートル以内(同右)では従来の区域別・水深特別の光力規制を継続すると共に、「集魚灯に使用する電球の数は、十八灯を超えて取り付けはならない」旨の設備制限を新設する、③違反の防止と漁業秩序の維持のため、県は別途、可能な限り現場の監視パトロールを強化することを骨子とする基本案で合意し、十一月の正式諮問に対応することとなった。

四、行政手続法の制定等に伴う海区漁業調整委員会の意見の聴取に関する手続規定の整備について(事前協議)

水産庁長官から行政手続法の制定等に伴う「意見の聴取に関する手続規定例」の制定及び「公聴会及び公開の聴聞に関する手続規定の一部改正案」に関する通知があったことから、当海区の規定整備について事前協議を行い、来月以降の委員会で正式に諮ることに

なった。

五、因但馬漁業調整協議会の開催予定

について(協議)

本年度、当海区が当番で開催する協議会につき、その設置並びに提案議題の処理については本県の構成員である浜坂町・香住町漁協と協議の上、決定したいとの事務局申出を了承。

なお、当協議会は、昭和四十四年以降、兵庫・鳥取両県の相互入会海域を定め、円滑な漁業調整を図ると共に、両県で設置した因但大型魚礁漁場の共同管理を行うことを両県知事が協定したいわゆる因但漁業協定書に基づき、但馬中西部の二漁協と鳥取県東部の六漁協で構成される調整組織で、必要に応じて両県海区委員会とも協議することとなっている。

本年度、当海区が当番で開催する協議会につき、その設置並びに提案議題の処理については本県の構成員である浜坂町・香住町漁協と協議の上、決定したいとの事務局申出を了承。

なお、当協議会は、昭和四十四年以降、兵庫・鳥取両県の相互入会海域を定め、円滑な漁業調整を図ると共に、両県で設置した因但大型魚礁漁場の共同管理を行うことを両県知事が協定したいわゆる因但漁業協定書に基づき、但馬中西部の二漁協と鳥取県東部の六漁協で構成される調整組織で、必要に応じて両県海区委員会とも協議することとなっている。

平成六年度全漁調連『日本海ブロック会議』を但馬で開催

—二百海里制度の全面適用等要望決議—

通算二十二回目を迎えた全国海区漁業調整委員会連合会の『日本海ブロック会議』が、去る十月十八日、豊岡市瀬戸のホテル「金波楼」で開催されました。



開催地区の代表挨拶をする木下会長

この会議は、広域的な水産資源の繁殖保護、漁業調整の円滑化、漁業秩序の確立を期すると共に、会員相互の連絡を密にするため、北海道から福岡県の十四道府県の海区委員会で開催する日本海漁業調整委員会連絡協議会と全



本会議開会の情景

漁調連との共催で毎年会員持ち回りで開催しているもので、本県での開催は昭和五十六年以来十三年振り、二回目となりました。

会議には、全漁調連の鳥海会長をはじめとする関係海区の会長、委員、事務局及び行政担当者のほか、水産庁沿岸課の加藤係官、香住漁業調整事務所の宮腰所長、兵庫県の矢野農林水産部長、本下水産課長、塩田但馬水産事務所長などのご来賓を迎えて約八十名が出席。また、当日の会議では、但馬海区の木下会長が連絡協議会の会長に選出されると共に、本会議の議長を務め、各海区から提案された十三議題の審議と次回開催地の協議が行われました。

各海区提案議題のうち五議題は、大部分の海区から提案された韓国漁船による違法操業問題で占められました。この問題では、外交上の複雑かつ微妙

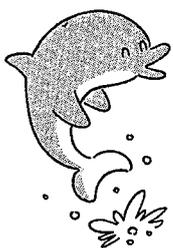
な問題を含んでいて解決が非常に難しいことは皆承知してはいるが、その犠牲になっている関係漁民の悲痛な訴えを背景に、一刻も早い事態改善への切実な要望が相次ぐなど、予定時間を大幅に超過する白熱の議論が交わされた後、二百海里制度の全面適用を中央へ強く要望する旨の決議が採択されました。

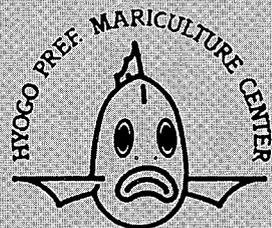
このほか、ロシアによる放射性廃棄物の海洋投棄の全面禁止と適切な処理体制の確立、急増している小型予りしゃりボート等と漁船との衝突を防ぐ安全対策や遊漁を行うプレジャーボートの組織化と指導体制確立のための所有者の登録義務化又は届出の制度化、広域的な資源培養管理対策や沿岸水域の環境保全対策の一層の推進等を求める要望決議を採択すると共に、次回の開催地に富山県を決定し本会議を閉じました。

本会議終了後には、兵庫県船底曳網漁業協会の吉岡会長(但馬海区委員)から豊富な体験と見識に基づく「韓国との漁業交流について」の講演が行われると共に、夜には懇親会、続く十九日には、但馬地区の漁協直販施設、県但馬栽培漁業センター及び但馬海中公園展などの現地視察が実施され、盛会の中に全日程を終了しました。

本年度の会議を但馬で開催するに当たりましては、関係機関・団体等に並々ならぬ協力、ご支援を賜りましたことを、この紙面を借り改めて厚くお礼を申し上げます。

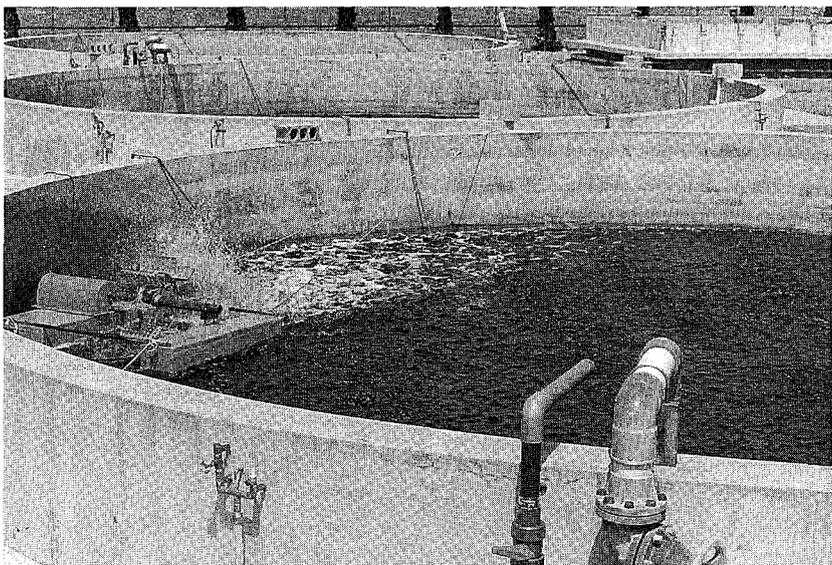
(但馬海区漁業調整委員会事務局)





栽培漁業センターです

74



ナンノクロロプシスの培養風景

酷暑の夏も過ぎ去り、ひと雨ごとに秋の色を深めてまいりました。さて、栽培漁業センターでは、年明けから続いた種苗生産事業も八月までに全ての魚種とも、無事終了することができ、現在は漁閑期といったところです。

しかし、種苗生産事業が、終わったからといって休んでばかりもいられません。例年この時期は十月中旬からアワビ、アカウニの量産試験を行うため、餌となる附着珪藻の繁殖や、母貝の確保および水槽の準備など忙しい日々が続くのです。また、毎日の作業として定置観測や、マダイ、ヒラメ、オニオコゼ等の親魚飼育、それに種苗生産期に必要なこと、これらの仔魚の餌料生物の培養も周年続けなければなりません。

このうち、とりわけ大変なのが餌料生物であるシオミズツボワムシの培養です。

シオミズツボワムシは、動物性プランクトンで全長が十分の二ミリ程しかありませんが、一日に三

〜四割も増殖します。このため毎日増殖した分だけ間引きを行ったり、餌料としてナンノクロロプシスやパン酵母を添加して維持に努めています。

また、シオミズツボワムシの餌料となるナンノクロロプシスは、植物性プランクトンの一種で、直径はわずか千分の二ミリ程です。肉眼では緑色の水にしか見えませんが、顕微鏡で覗くと無数の細胞が見られ、その数は一cc当たり三千万個にもなります。シオミズツボワムシは大量にナンノクロロプシスを摂餌するため、栽培漁業センターでは屋外の百トンもある大型水槽で周年培養しています。(写真参照)

これらは地道な作業ですが、栽培漁業センターの重要な業務の一つです。

(兵裁協 檣 秀隆)

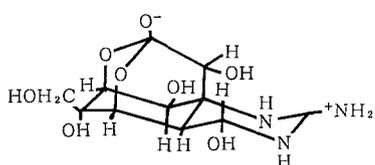


普及員だより

あたると怖いフグの話

フグが美味い季節になった。現在日本においてフグ鍋は高級料理として位置づけられている。ところが江戸時代ではこの料理を食べることが法律で禁じられていた。猛毒を持っているため中毒死が絶えなかったからである。それでも庶民はフグを食べることが止められず、関西方面では鉄砲(あたれば死ぬことから)と呼ばれ、密かに楽しまれてきた。現在言われている「てっさ」「てっちり」はその語源による。フグ毒の主成分はテトロドトキシンという猛毒で、この物質は水・油にほとんど溶けず加熱してもこわれぬ。そのため食す場合は毒のある組織を取り除かなければならない。主に卵巣・肝臓に多く含まれるが、フグの種類によって違った部位に毒が存在するので注意が必要である。仮に中毒になったとしてもこれと言った治療法もなく、助かる方法は中毒がおさまる時間(8時間以上)まで生き永らえる事しかない。しかしほとんどの場合は体じゅうの神経が麻痺し、最後には呼吸困難に陥り死に至る。江戸時代命を賭してまでフグのキモを食べようとしたのは、それがたとえようもない美味であり、運が良ければ命が助かる場合もあったからにほかならない。良薬は口に苦しと言いが、逆に考えると口当たりの良いものは体に悪いという事でフグ毒も例外ではない。フグの仲間が毒をもっているのは毒素を体内に蓄積する働きがあるためで、一般の魚類は体内に残さず排泄する。つまり体内に毒を持つことにより外敵から身を守る手段をとったのである。同じような成分がヒョウモンダコの足先やイモリ類の卵から見つかっており、フグについてはその体型から瞬敏に泳げないためこのような方法を選んだ。

テトロドトキシン



このようにフグは猛毒を持っているが、毒のない部分を食べる限り問題ない。毒のある部位は美味かもしれないが、それで命を落としてしまつては元も子もないだろう。

(姫路農林水産事務所)

◆材料・分量◆

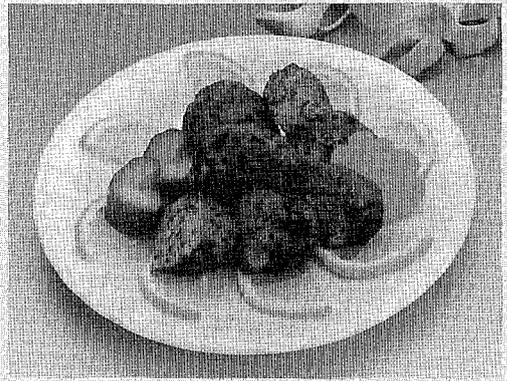
イワシ(中).....5匹
塩.....小さじ1
みりん.....大さじ1

片栗粉.....大さじ2
わかめの芯.....10g
レモン
揚げ油

●わかめの芯入り
イワシのさつま揚げ●

◆作り方◆

- ①わかめの芯は熱湯でもどしどし小さく刻む。
 - ②イワシは、頭、内蔵、骨、尾をとり除いて水で洗う。
 - ③イワシの身を包丁でたたき、すり鉢に、塩、みりん、片栗粉を入れてすり混ぜる。
 - ④③でできたイワシのすり身とわかめの芯を混ぜ合わせ、手で平たく形をととのえる。
 - ⑤中温の油であげ、レモンを添える。
- ★味付けが薄いと感ずる場合は、生姜醤油で食べる。

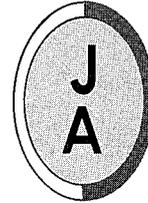


アイデア料理 粟井 美栄子 さん

旬の美味しい話 (25)



兵庫JCC通信
今、JA・生協では



コープこうべ『コープデイズ神戸北町』
播磨生協『コープ赤穂』

十月二十一日(金)、兵庫県公館で行われた「福祉のまちづくり推進大会」の中で、コープこうべの『コープデイズ神戸北町』と播磨生協の『コープ赤穂』のそれぞれの店が「福祉のまちづくり賞」に選ばれ表彰されました。

表彰理由として、『コープデイズ神戸北町』が、車いすでも利用できるエレベーターや、男女別の便所の設置をはじめ、障害者用駐車区画を屋内に設けて雨天時の配慮をしており、レジの幅員を広げ、車いすでも利用できるよう便宜を図っていること。また、『コープ赤穂』が難聴者用公衆電話の設置等、随所に高齢者や障害者に配慮した整備が施されており、視覚障害者のために、職員が買い物の手助けをするなど、きめ細かい配慮を行っている点があげられています。

創造と変革で培う
JAづくりをめざして

兵庫県のJAグループが、今後進むべき方向を決める「第二十六回兵庫県JA大会」が十月二十六日、県農業会館で開催され、県下JAの役員代表者約五百人が参加しました。

特に、最近の経営環境の変化を反映して、まず健全な経営を確立することを第一義とし、組合員・利用者への事業機会の提供と事業サービスの向上に努めるとともに、「17JA合併構想」の啓発・推進と合わせ、本県JAグループの事業・組織の改革を進めることなどに重点を置いて取り組む必要があります。

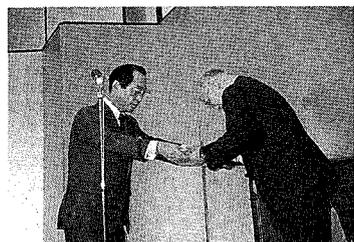
大会ではこれらを踏まえ、「創造と変革で培うJAづくりをめざして」をメインスローガンとする「地域と人、いきいきJA活動」の展開を決議しました。主な内容は



- 次のとおりです。
- ①自然と環境に優しい農業と農業と特産物のあつ地域づくりをすすめます。
 - ②快適なくらし・住みよいまちづくりとJAの総合力を生かした魅力ある事業活動をすすめます。
 - ③新たな創造と変革で、事業サービスの向上と経営体質の強化をはかります。

この「福祉のまちづくり賞」は、兵庫県が「福祉のまちづくり条例」を制定し、さらに、具体的な実施のための研究施設として「兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所」を設立してから1周年を記念してつくられたもので、今回が初めてのものです。

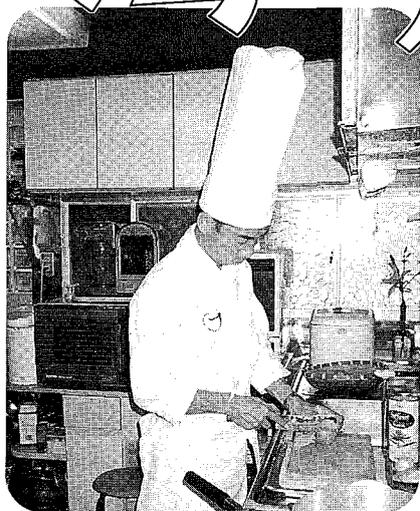
今回の受賞者は、コープこうべと播磨生協を含む、十二(八つの施設整備と四つの地域活動の事業者・グループ)でした。



釜本貞男・兵庫県福祉部長から受賞するコープこうべ・次家信常務

●サンテレビの

おは海です



料理をする丸一さん



リポーター逮捕

剣道二段 料理は シェフの腕前

秋シラスで賑わう港
～兵庫県津名郡

北淡町より～

'94.10月2日放送
(第888回)

ロケだより

兵庫県・淡路島の西浦、播磨灘に面した北淡町。

北淡町は、明石海峡から鹿ノ瀬、室津の瀬に至る好漁場を持つ、漁業と果樹栽培の盛んな町。淡路島の北に位置するところから町の名がつけられ、隣の町・淡路町とともに本土に最も近い町です。北淡町には、北から富島・浅野浦・育波浦・室津浦と四つの港があります。中でも育波浦は全ての漁師さんが、イカナゴやシラスの船引漁と云う船引の基地。兵庫県の船引漁の発祥の港です。毎朝百五十隻程の船が、午前四時の出航を待ちかねたように港を一齐に出てゆく様は正に壮観です。秋シラスはカタクチイワシの稚魚。小さいイカナゴやシラスの加工は、水揚げから二時間以内しないと鮮度が落ち、良い加工品は出来ません。育波浦の港近くには沢山の加工屋さんが並んでいますが、漁のある日は何処も朝早くから釜の湯を沸かしシラスの着くのを待つと云う状態です。よって鮮度の一番好い状態で加工場へ。この連携プレーが育波浦のシラスの品質を保障しています。

この育波浦漁業協同組合の理事さんに、中々ユニークな漁師さんが居られると云うことで、今回は、その丸一芳訓さんにスポットをあててみました。丸一さんの家族は、元組合長を務めたこともあるお父さんの晴美さんを中心に、お母さん・弟さん・奥さんと三人の子供さんの八人の大家族。丸一さんは地元津名高校を卒業、東京の国士館大学を出て、兵庫県警の巡査だった

という経歴の持ち主。長男と云うこともあり、何れは淡路に帰ってお父さんの後を継いで漁師になる約束の上の事だったそうです。警察官は人相手の仕事…。漁師は自然相手の仕事。「自然相手の方がアッサリとってエエですわ」と云う丸一さんですが、警察官時代も中々ユニークだったようです。その警察官時代に覚えた、人命救助が役にたったことも何度かあるそうです。やはりその時に修業した剣道も、今はもっぱら体力テストの感。船引漁は朝四時から午後二時の沖の網仕舞が決められた時間です。丸一さんはその一日の沖仕事を終え、帰って家族の料理を作るのだそうです。料理が趣味といっても中々大変だと思っのですが、この日は得意のテールシチューを作っていました。

趣味は料理というだけあって手際も良く、出来上がりもシェフの味わいでした。漁協の婦人部の部長さんとして忙しいお母さんや、洲本警察にお勤めの奥さんの代わりに台所へ立つことが多いのだそうですが、お母さんに云わせると後片付けが大変とか…。この日のテールシチューを口にお父さんは魚の方が旨いワ。これには一生懸命頑張った丸一さんも思わずガククリの一幕や。管理型漁業の推進で漁が休みの日も一日一度は汗をかくのがモットーのお父さん。娘三人、お母さん、奥さんと、女の方が優勢な丸一さんの家族。「そらウルサイデー」という丸一さんですが、大家族のそれは楽しく明るい一家でした。

1994年11月10日発行 通巻457号
昭和32年10月18日 第3種郵便物認可

発行人 兵○!漁業協同組合連合会

発行所

兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金

〒652 神戸市兵庫区中之島2-2-1 FAX 671-5685

TEL 652-3424 定価80円(本体78円)